

交野市文化財調査概要 1991-3

平成 2 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1991. 3

交野市教育委員会

目 次

例 言

| | |
|------------------|----|
| 第1章 理藏文化財発掘調査の状況 | 1 |
| 第2章 発掘調査報告 | 3 |
| 第1節 交野郡衙遺跡 | 3 |
| 第2節 私部城遺跡 | 7 |
| 第3節 でがしろ遺跡 | 9 |
| 第4節 東倉治遺跡 | 11 |

挿 図

| | |
|---------------------------|----|
| 第1図 平成2年度交野市内発掘調査位置図 | 2 |
| 第2図 交野郡衙遺跡調査地点図 | 3 |
| 第3図 交野郡衙遺跡第2地点掘削位置図 | 4 |
| 第4図 交野郡衙遺跡第2地点第1トレンチ南壁断面図 | 5 |
| 第5図 交野郡衙遺跡第3地点掘削位置図 | 5 |
| 第6図 交野郡衙遺跡第3地点第1トレンチ東側断面図 | 6 |
| 第7図 交野郡衙遺跡第4地点掘削位置図 | 6 |
| 第8図 交野郡衙遺跡第4地点南側断面図 | 6 |
| 第9図 私部城遺跡調査地点図 | 7 |
| 第10図 私部城遺跡掘削位置図 | 8 |
| 第11図 私部城遺跡第1トレンチ北壁断面図 | 8 |
| 第12図 でがしろ遺跡調査地点図 | 9 |
| 第13図 でがしろ遺跡掘削位置図 | 10 |
| 第14図 でがしろ遺跡第1トレンチ東側断面図 | 10 |
| 第15図 東倉治遺跡調査地点図 | 11 |
| 第16図 東倉治遺跡掘削位置図 | 12 |
| 第17図 東倉治遺跡第1トレンチ東側断面図 | 12 |

挿 表

| | |
|---------------------|---|
| 表1 平成2年度補助対象発掘調査一覧表 | 1 |
|---------------------|---|

図 版

- 1 交野郡衙遺跡第2地点第1調査塙断面
- 2 交野郡衙遺跡第3地点第1調査塙
- 3 交野郡衙遺跡第4地点調査塙南側断面
- 4 私部城遺跡第1調査塙
- 5 でがしろ遺跡第1調査塙
- 6 東倉治遺跡第1調査塙

例　　言

1. 本書は、交野市教育委員会が、平成2年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、交野市教育委員会が調査主体となって実施し、報告書の作成は社会教育課の小川暢子が担当した。
3. 調査の実施、本書の作成及び遺物の整理にあたっては、鳴澤泰彦、鳴澤聰、森口健太郎、仲西功夫、西中蘭修、畠敏道、西畠裕史、齊藤登美子、近迫静子、好光直子、魚見大和、深見輝子、西川洋子、森智恵子、安田浩子諸氏の協力を得た。

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では、平成3年2月28日現在に至るまでに9件の補助事業にかかる発掘調査を実施した。

本年度の発掘調査状況（文化財保護法57条の2及び3に基づく届出および建築確認申請件数）についてはほぼ同数であるが、補助対象にかかる分については前年度の4件に対し9件であった。本年度の発掘届出の傾向を見てみると個人住宅建設に伴うものよりも2~3階建の共同住宅に伴うものが増加していることがわかる。また地区別に見ると本年度は昨年にひきつづき郡津地区での開発が多く見られる。調査内容では、掘削深度の深い基礎工事においても遺構等が検出されなかっただため本発掘にまで至らなかった。また補助対象の調査でもいざれも遺構等が検出されなかっただため写真及び断面図作成でとどめることとなった。

表1 平成2年度補助対象発掘調査一覧表

(平成2年4月1日~平成3年2月28日)

| 調査区 | 遺跡名 | 申請者 | 所在地 | 面積(m ²) | 備考 |
|-----|--------|-------|-------------------------------|---------------------|--|
| 1 | 交野郡衙 | 垂水 弘 | 交野市郡津 5丁目646-10 | 156.95 | 1.0×1.4×1.0mのトレンチ 設定。 盛土が続く。 |
| 2 | 交野郡衙 | 林 徳治郎 | 交野市郡津 3丁目1447番地 | 216.47 | 本文4ページ |
| 3 | 私部城 | 上田 進 | 交野市私部 6丁目1740-2 1741-2 | 485.76 | 本文8ページ |
| 4 | 郡津丸山古墳 | 奥居 元一 | 交野市郡津 5丁目1084-45 | 70.52 | 1.0×2.0×1.0mのトレンチ設定。 古墳の周溝内か? |
| 5 | でがしろ | 岡本 晃二 | 交野市私部 1丁目3134-6 | 110.18 | 本文10ページ |
| 6 | 交野郡衙 | 谷 やすゑ | 交野市郡津 3丁目1431番の 1部 | 244.06 | 本文5ページ |
| 7 | 交野郡衙 | 中 清隆 | 交野市郡津 3丁目1943-1 | 393.09 | 本文6ページ |
| 8 | 天田神社 | 喜多 哲 | 交野市森南 2丁目433 | 106.61 | 1.0×2.0×2.0mのトレンチ設定。 すべて河川に伴う砂層が続く。 |
| 9 | 東倉治 | 吉田 政一 | 交野市東倉治 3丁目2162-1 2162-5 | 330 | 本文12ページ |



第1図 平成2年度交野市内発振調査位置図

1:20,000

第2章 発掘調査報告

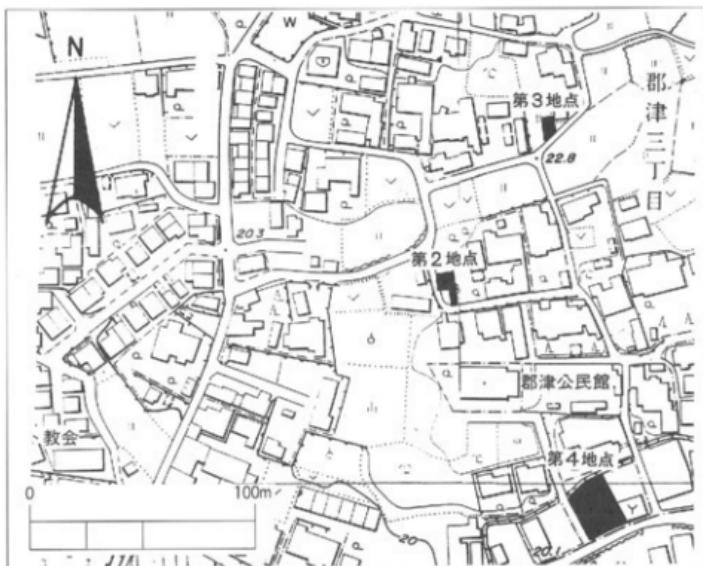
第1節 交野郡衙遺跡

I 調査に至る経過

交野郡衙遺跡は、平尾兵吾氏の著書である『北河内郡史蹟史話』の中で、郡津の位置と交通から推定して、郡津が古代交野郡の郡衙所在地と考えたのが最初である。氏は、東高野街道、磐船街道、峠崖道等の大通が郡津に集中していること、私市の天田神社付近を一条とし、枚方市駅付近を十条とする条里制のほぼ中央（五条～六条）に郡津が位置していることを根拠にしている。

郡津地区には、市内でも最も古い寺のひとつである長宝寺（現在の郡津神社付近）が建っていたことや江戸時代まで「郡門」と書き「こうず」と読ませていたことなども平尾説を裏付けるものと考えられている。

交野市教育委員会では昭和50年度、52年度に郡津神社付近の郡衙跡範囲確認調査を行い、溝状造構、ピット等を検出しておらず、遺物として白鳳期の蓮華文軒丸瓦片をはじめ、奈良期から中世に至るまでの平瓦片が多数出土している。また、昭和63年度、64年度には郡津小学校東側台地の試掘調査を行い、古墳時代後期の柱穴、鎌倉時代の柱穴等を出土しているが、明確に郡衙跡と断定できるだけの成果をあげるには至っていない。



第2図 交野郡衙遺跡調査地点図

II 調査結果

第2地点(郡津3丁目1447番地)

木造2階建住宅建設に伴う試掘調査である。敷地面積は216.47m²である。

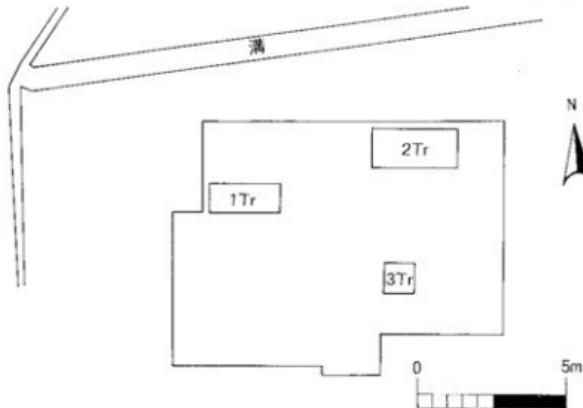
敷地内3ヶ所に大小それぞれ3ヶ所の試掘場を設定し、それぞれ第1・第2・第3トレチとした。

第1トレチは幅1.0m、長さ2.3m、深さ0.22mから0.36mの規模である。層序は上部より、表土約6cm、にぶい黄色砂質土層礫混約5cm、黒褐色砂質土層約5cm、にぶい黄橙色砂質土層小礫混り約14cmとなり、その下は明褐色黄橙色砂質土層(地山層)が続くものと思われる。上層よりカクランが見られ、また西にいくにしたがって地層は下がっていく。

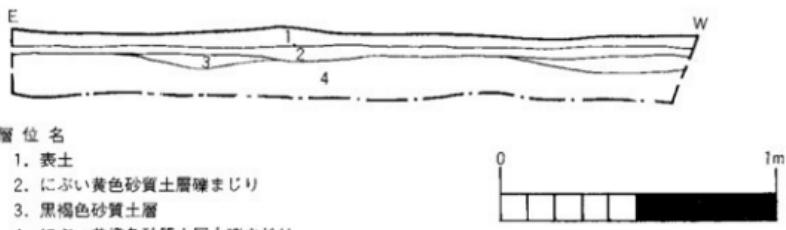
第2トレチは幅1.3m、長さ2.8m、深さ0.46mの規模である。層序は上部より、表土約12cm、腐敗土層約22cm、暗灰黄色土層小礫混り約8cm、暗灰黄色土層小礫多量混入約18cm、その下部に黄橙色粘質土層が続く。2層めの腐敗土層は、出土物より近年にゴミ捨て場として利用されたと考えられる。

第3トレチは幅1.0m、長さ1.0m、深さ0.34mから0.64mの規模である。層序は上部より、表土約12cm、黄橙色粘質土層が続く。

これら3ヶ所のトレチから地山面は北へ向かうにつれて下がっていくことがわかる。昭和63年度に試掘調査を行った同調査地西側部分でも、地表下1.1mでやっと旧耕作面になるぐらいで相当北へ落ちこんでいるようである。実は、同調査地の北東300m付近から西の方角に幅30mにわたって深さ約4mの渋り谷と呼ばれる深い谷が走っていた。現在ではほとんどその姿を明らかにすることはできないものの同調査区の北側への落ちこみは、この谷の南側の端である可能性を含んでいるものと思われる。



第3図 交野郡衛遺跡第2地点掘削位置図



第4図 文野郡衙遺跡第2地点第1トレンチ南壁断面図

第3地点（郡津3丁目1431の一部）

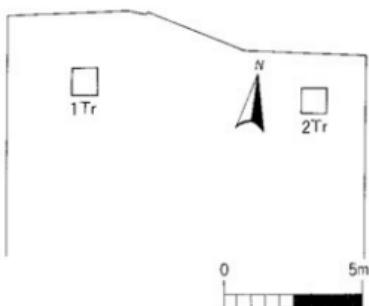
鉄骨2階建住宅建設に先立っての調査である。敷地面積は244.06m²である。

敷地内北側に幅1.0m、長さ1.0mの試掘坑を2か所設定し、それぞれ第1・第2トレンチとした。

第1トレンチは深さ約0.7mまでまず掘削し、さらに南側半分を深さ約0.3m程掘り進めた。層序は上部より、表土約38cm、灰色粘土層約38cm、緑灰色砂土と明黄褐色砂土の混合層約12cm、明黄褐色砂層（地山層）へと続く。

第2トレンチは深さ約1.0mで、層序は上部より表土約40cm、以下第1トレンチに同じである。

今回の調査では造構・遺物等は検出できなかった。先程の第2地点と同じく当地点も渋り谷と呼ばれる谷の一部に加わるものと思われ、付近の調査結果とも考え合わせて、この付近には造構は存在しないものと判断した。よって写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第5図 文野郡衙遺跡第3地点掘削位置図



第6図 文野郡衛遺跡第3地点第1トレンチ東側断面図

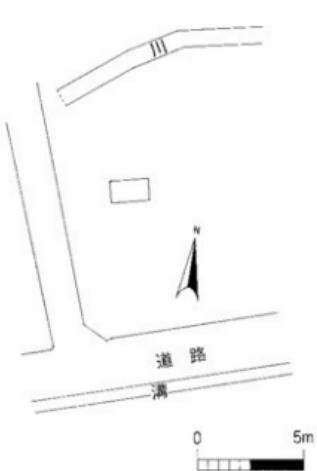
第4地点（郡津3丁目1943の1）

農業用倉庫建設に先立つての調査である。敷地面積は、393.09m²である。

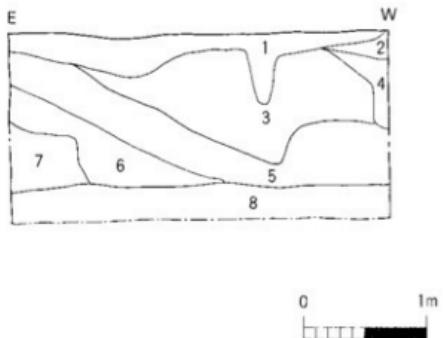
敷地内や北よりの部分に幅2.0m、長さ4.0m、深さ約1.5mの試掘坑を設定し掘削を行った。層序は上部より、7層に分層できる。盛土約125cm、暗灰色粘土層約25cm、緑灰色粘土層と続く。

当地区は北側からゆるやかに傾斜する斜面に位置するが、当所有者の話や地層の堆積の仕方から考えても相当土地を削ったところに盛土したものと思われる。

よって、当該地からは遺構、遺物が共に出土するとは思われないので、写真撮影及び断面図を作成し、調査を終了した。



第7図 文野郡衛遺跡第4地点掘削位置図



- | | |
|--------------|---------------------|
| 層位名 | |
| 1. 耕作土 | 5. 明オリーブ灰粘土層暗青灰粘質土層 |
| 2. 青灰色粘質土層 | 6. 緑灰色粘質土層 |
| 3. 暗緑灰粘質土層 | 7. 灰オリーブ色砂質土層 |
| 4. にぶい黄色粘質土層 | 8. 暗灰色粘土層 |

第8図 文野郡衛遺跡第4地点南側断面図

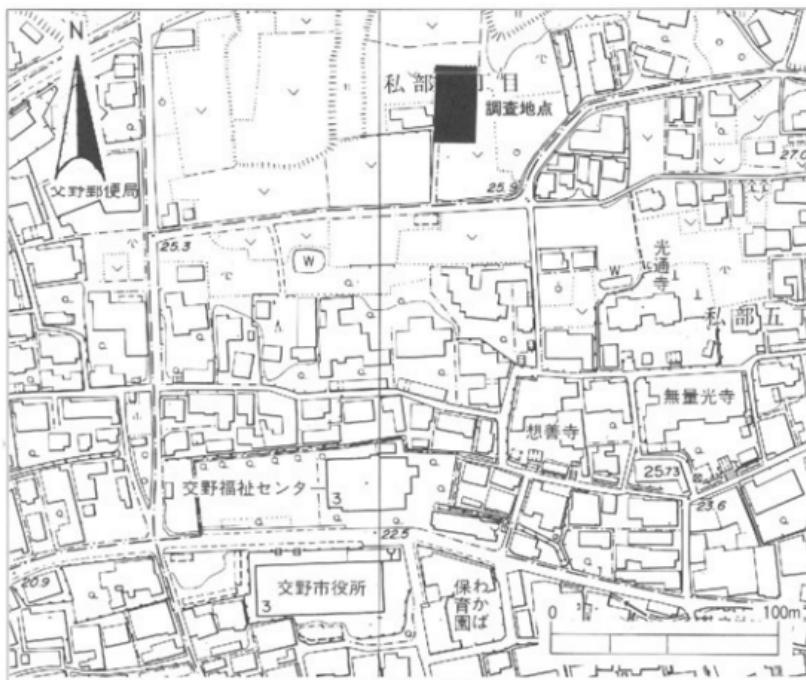
第2節 私部城 遺跡

I 調査に至る経過

私部城遺跡は生駒山地の麓から続く台地の西端部に位置し、西及び南、北側の三方はそれぞれ天野川、百々川、中川による低湿地を形成し天然の要塞をなしており、城の付近には東高野街道及び奈良へ通じる磐船街道、かいがけの道が通じてこの地域の交通の要衝となっている。城の範囲はおよそ400m×250mにわたる。

私部城自体は、別名交野城とも言い府下では数少ない複郭式の平城の一つである。本城は南北朝の頃、畠山氏の重臣であった安見氏の居城として築かれたが、その後戦国時代において時の城主安見直政が織田信長に味方して石山攻めに参加した際河内門徒によって大敗し、その後氏が病死したため城も衰退し天正3年（1575）信長によって廃城となった。

昭和44年9月に水道管敷設工事のため地下1m程掘り下げたところ、第3郭（標高約25m）より①（弥生時代中期の壺・甕・高環等の破片の他）②（石包丁・扁平片歯石斧および剝片が出土した）ことから当遺跡が弥生中期・中世の複合遺跡であることが判明した。



第9図 私部城遺跡調査地点図

II 調査結果（私部6丁目1740の2、1741の2）

木造2階建住宅建設に先立っての調査である。敷地面積は485.76m²である。

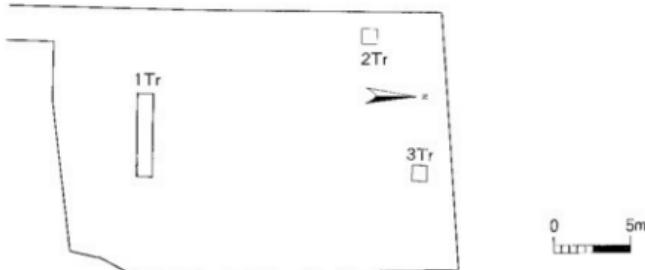
第1次調査は、敷地内南側の部分に幅1.0m、長さ5.3mの試掘場（第1トレンチ）を設定した。層序は表上約4cm、淡黄色砂層約5~12cm、黄褐色砂質土層約10~25cm、その下が黄褐色砂質土層（約3~5mmの砂粒を多く含む一地山層）となる。遺物・遺構とも確認できなかったため写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

第2次調査は、旧住宅取り壊し後の調査で敷地内西端と北端の2ヶ所に試掘場を設定し、第2、第3トレンチとした。

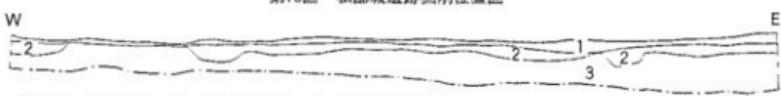
第2トレンチは西側トレンチで幅1.0m、長さ1.0m、深さ0.65mの規模で、層序は表土約10~18cm、褐色砂質土層約20cm、黄橙色砂層約20cm、明褐色砂層約5cm、その下に淡黄色粘土層が続く。この層は、色・質とも第1トレンチと異なるが地山層と思われる。

第3トレンチは北側トレンチで幅1.0m、長さ1.0m、深さ0.45mの規模で、層序は表土約20cm、橙色粘質土層12cm、明黄褐色+浅黄色粘土層（地山層）が続く。

遺物、遺構とも両トレンチ内で確認できなかったため、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。なお今回の調査では弥生時代の包含層検出を目的としていたが、調査結果から判断して既に削平を受けていたと考えられる。



第10図 私部城遺跡掘削位置図



層位名 1. 表土 2. 浅黄色砂層 3. 黄褐色砂質土層

第11図 私部城遺跡第1トレンチ北壁断面図

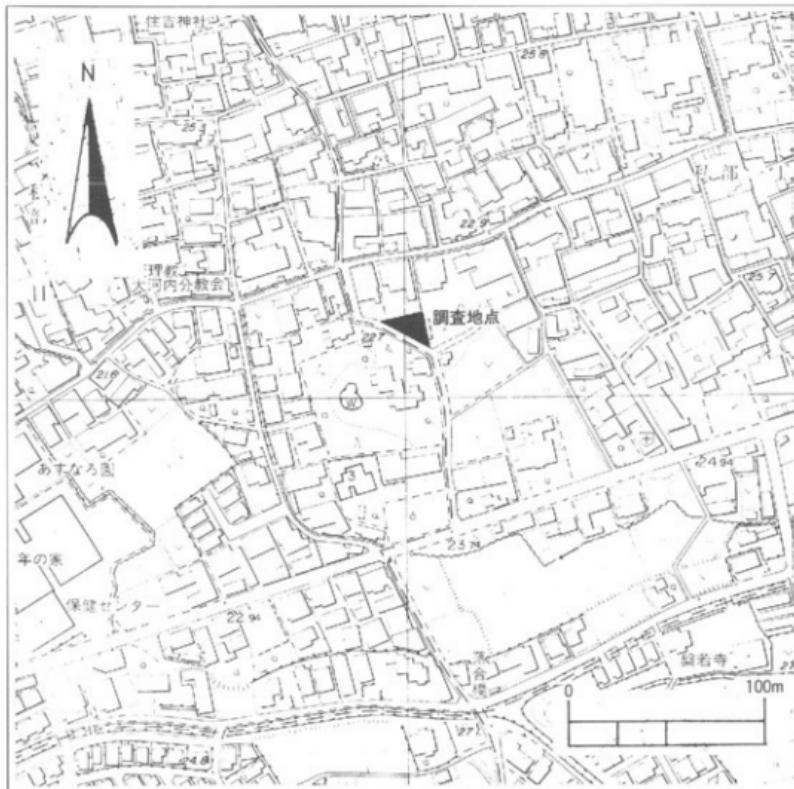


第3節 でがしろ遺跡

I 調査に至る経過

でがしろ遺跡は、市の中央部の私部に位置している。^(註)原田氏所蔵の私部名寄帳及び検地帳によれば、当地は延宝年間（1673年～1681年迄）には上居が城と記され、それが後に訛ってでがしろになったという。土居とは居住地周辺にめぐらした防禦用の土壘をさし、有名なものに太閤秀吉の御土居があげられるが当遺跡地でも方25間（45m余）を土堤状に築き上げ外側に濠をめぐらしたと想像される築造物が部分的に残っているという話がある。

原田氏によれば今回の調査地より東南に7m程のモーターパーク設営の折には、須恵器や土師器の破片が多量の焼け瓦に混ざって出土したことである。実見したところでも瓦質鉢や鍋等が出土しており当地は室町時代の遺跡と考えられる。



第12図 でがしろ遺跡調査地点図

II 調査結果(私部1丁目3134の6)

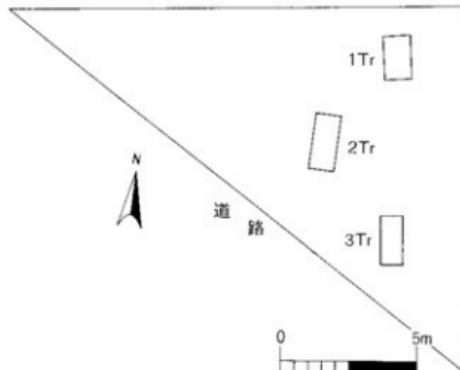
鉄骨3建階住宅建設に先立つての調査である。敷地面積は110.18m²である。

敷地内に3ヵ所の試掘坑を設定し、それぞれ第1・第2・第3・トレンチとした。

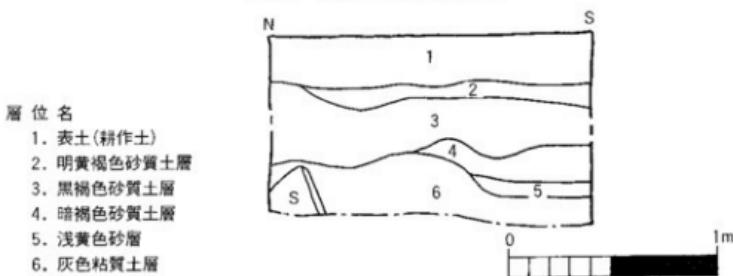
第1トレンチは、調査区内北東に位置し、幅1.0m、長さ1.6m、深さ0.9mの規模で層序は上部より表土(耕作土)約25cm、明黄褐色砂質土層約10cm、黒褐色砂質土層約25cm、暗褐色砂質土層約20cm、浅黄色砂層約8cm、灰色粘質土層約10~30cmと続く。第6層からは人為的に並べられたと思われる約30cm大の石と杭を検出した。

第2トレンチは、調査区ほぼ中央に位置し、幅1.0m、長さ2.0m、深さ0.9mの規模で、層序は表土下第1トレンチとはほぼ同じで水平な堆積の仕方である。

第3トレンチは、調査区南東に位置し、幅1.0m、長さ1.8m、深さ1.0mの規模で、層序は表土下第1トレンチとほぼ同じである。これら3ヵ所のトレンチを総合してみると第6層より南へ行くにしたがって地層が下がっている。また第1トレンチで出土した石列の一部は、近隣の人によれば以前建っていた(耕作地となる前)家の石組もしくは堀の一部ではないかということである。よって工事の基礎掘削の深度まで掘削して遺構・遺物等は確認されなかったので、写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。(註)原田英二氏(元 私部村庄屋)



第13図 でがしろ遺跡掘削位置図



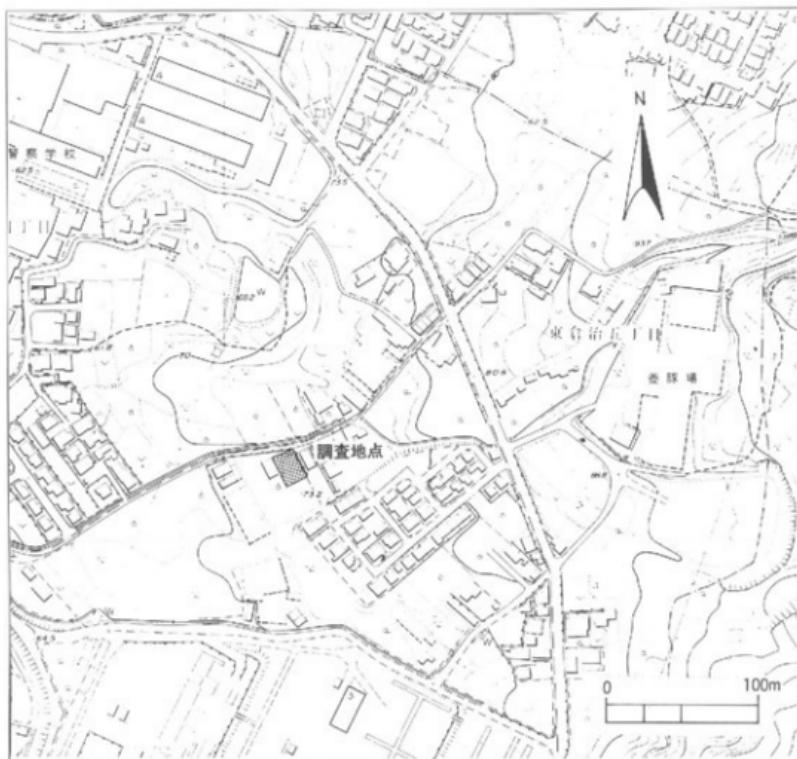
第14図 でがしろ遺跡第1トレンチ東側断面図

第4節 東倉治遺跡

I 調査に至る経過

東倉治遺跡は、市内東北部標高約65mから約100mの交野山の山裾付近に位置する弥生時代後期から古墳時代・中近世に至る迄の遺跡である。昭和42年付近一帯に広がる倉治古墳群の一つである清水谷古墳の東側丘陵で、弥生式土器が出土したのを契機として当周辺一帯を東倉治遺跡とした。(東倉治5丁目付近)

遺跡は点在しており、またほとんどが造構と伴わないものだが、注目すべき遺物では弥生時代後期の器台、鉢、近江系土器等が出土している。また当遺跡は地域の古くからの言い伝えによれば中世に大規模な山崩れ等による土砂流出があったとされ、昭和62年度の清水谷古墳周溝確認の調査ではこれを裏付けるかの如く大量の土砂が堆積していた。今後の調査が期待される遺跡である。



第15図 東倉治遺跡調査地点図

II 調査結果（東倉治3丁目2162の5）

木造2階建住宅建設に先立つての調査である。敷地面積は330m²である。

敷地内ほぼ中央部に試掘坑を2ヶ所設定し、それぞれ第1・第2トレンチとした。

第1トレンチは北側のトレンチで幅4m、長さ7m、深さ2.7mの規模で、層序は上部より表土(耕作土)約20cm、明黄褐色砂層約30cm、褐色砂層約5~12cm、にぶい黄橙色+灰白色の砂層約15cm、以下10層まで黄橙色または灰白色の砂層が交互にはほぼ水平に堆積している。ただ9層めは幅2.4m(現存長)深さ約56cmの溝状遺構が断面に見うけられ、溝底には最大で約20cmの比較的角ばった石が集中している。

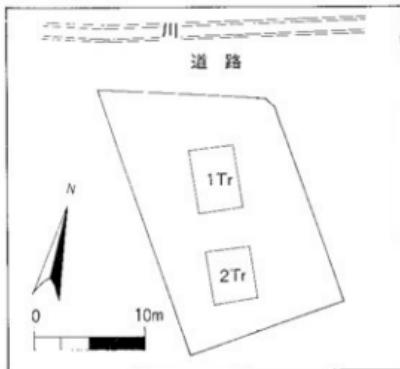
第2トレンチは幅4.0m、長さ6.0m、深さ1.2mの規模で、層序は第1トレンチと同じである。

当地の東北方向約220m程上った清水谷古墳では大規模な山崩れ等によって堆積したと思われる土砂が約2m程あったが、今回の調査では、既に2.7mを越え、更に砂層が続くと思われたため地山検出には至らなかったが、写真撮影及び断面実測図を作成して調査を終了した。

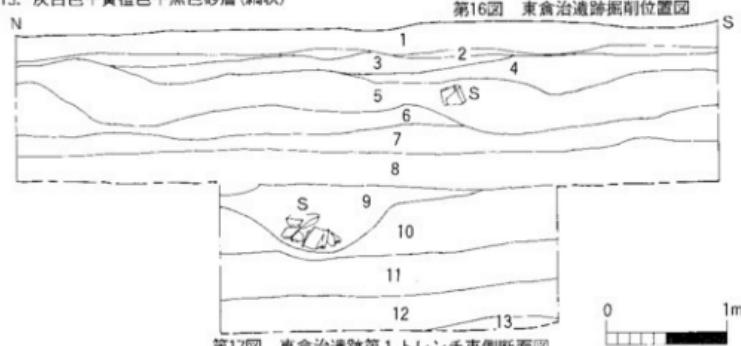
なお第1トレンチ内の東西方向の溝状遺構は、人工的よりむしろ自然発生的なものによってできたと思われる。

層位名

1. 表土
2. 橙色砂層
3. にぶい黄橙色+灰白色砂層(縞状)
4. 明黄褐色+灰白色砂層(縞状)
5. 明黄褐色+灰色礫まじり砂層(縞状)
6. 明黄褐色+黒色砂層(縞状)
7. 黄褐色+黒色+灰白色砂層(縞状)
8. 明黄褐色+黒色+灰白色砂層(縞状)
9. 黄橙色+灰白色+黒色砂層
10. 灰白色+にぶい黄橙色+黒色砂層(縞状)
11. 白色+明黄褐色+黒色砂層(縞状)
12. 灰白色+オリーブ緑色+黒色砂層(縞状)
13. 灰白色+黄橙色+黒色砂層(縞状)



第16図 東倉治遺跡掘削位置図

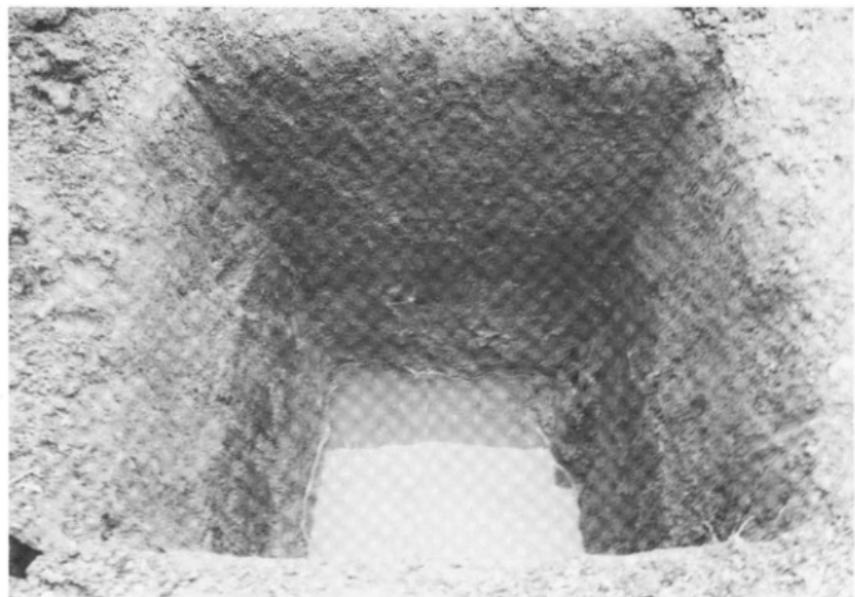


第17図 東倉治遺跡第1トレンチ東側断面図

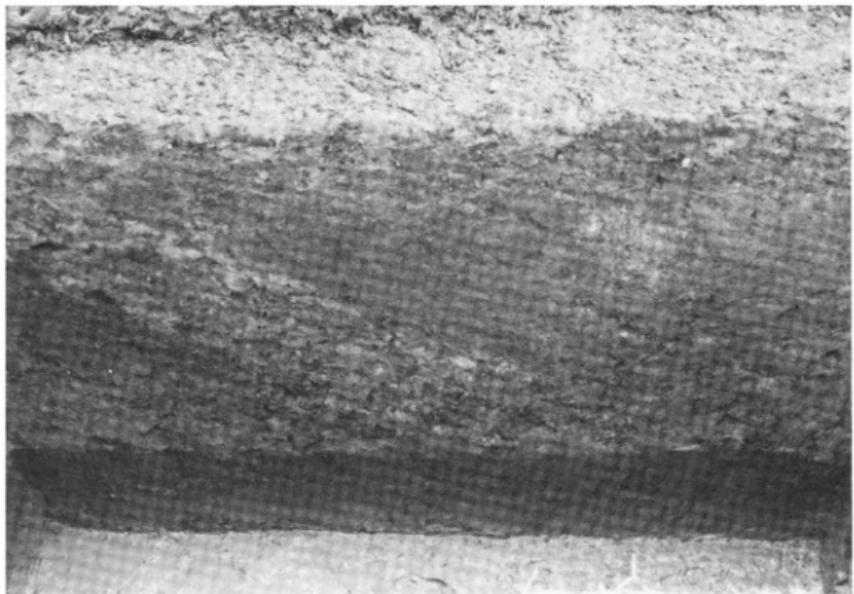
図 版



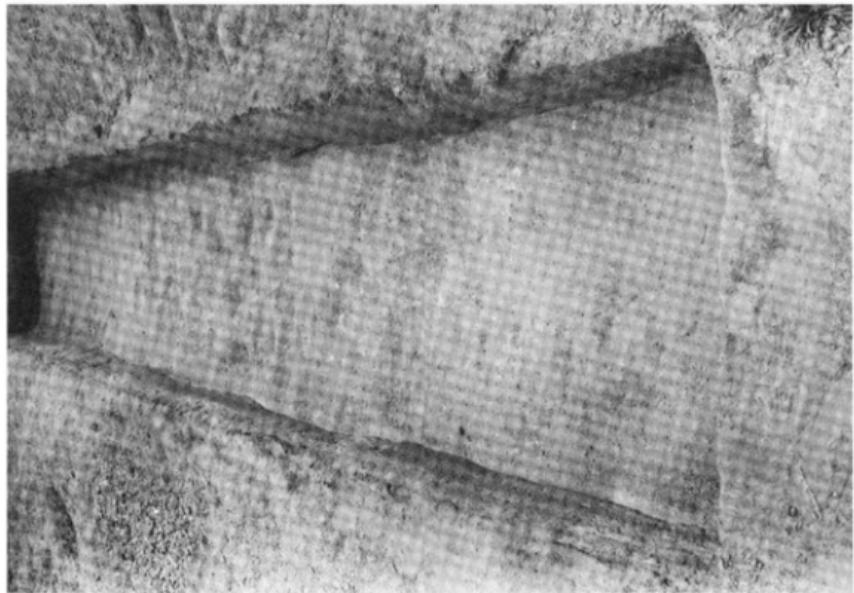
文野郡衙遺跡第2地点第1調査坑断面



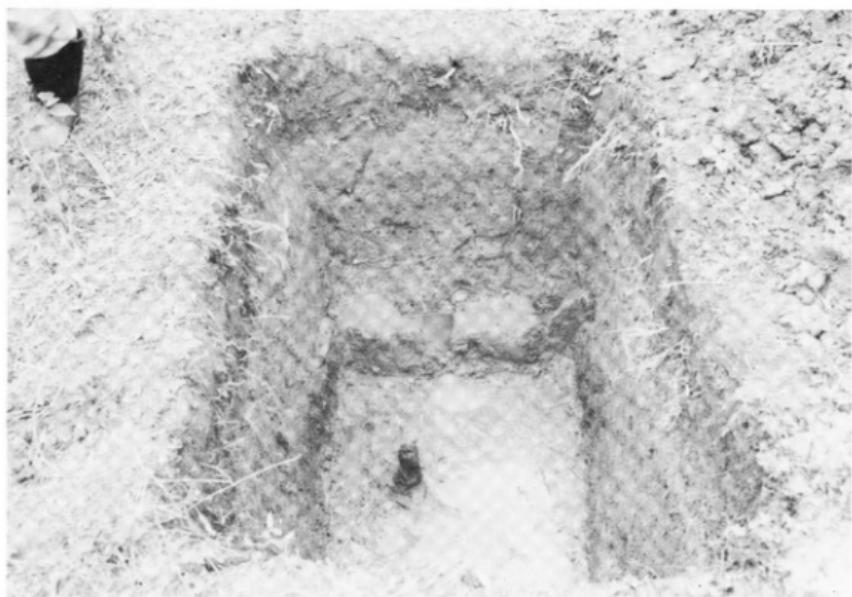
文野郡衙遺跡第3地点第1調査坑



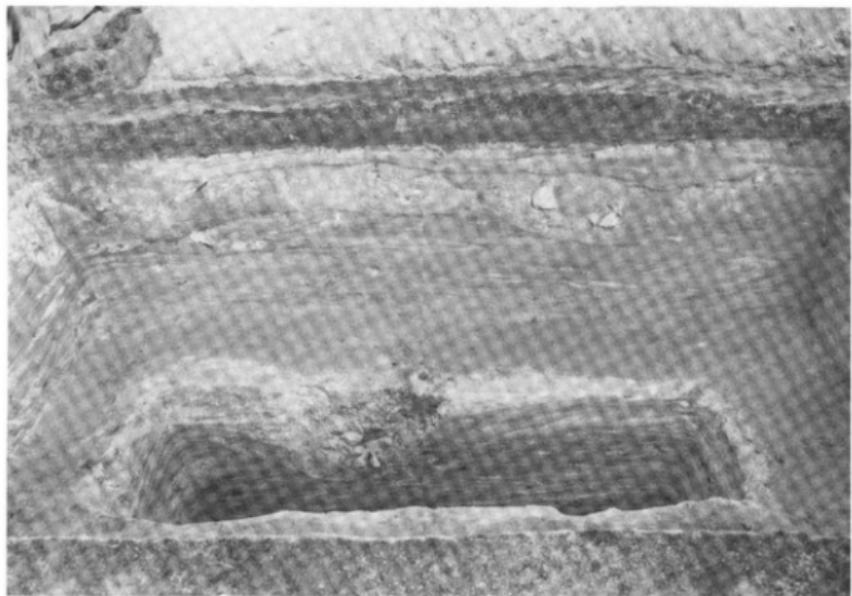
交野郡衙遺跡第4地点調査塁南側断面



私部城遺跡第1調査塁



でがしろ遺跡第1調査塗



東倉治遺跡第1調査塗

